

# 2023年12月期 第118期 第3四半期 業績概要

2023年11月14日  
日東精工株式会社  
(証券コード 東証プライム:5957)



2023年3月  
健康経営銘柄  
3年連続選定

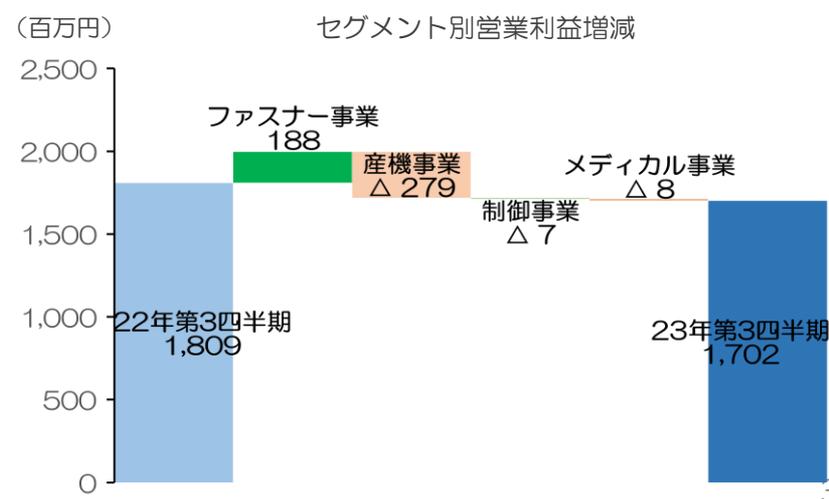
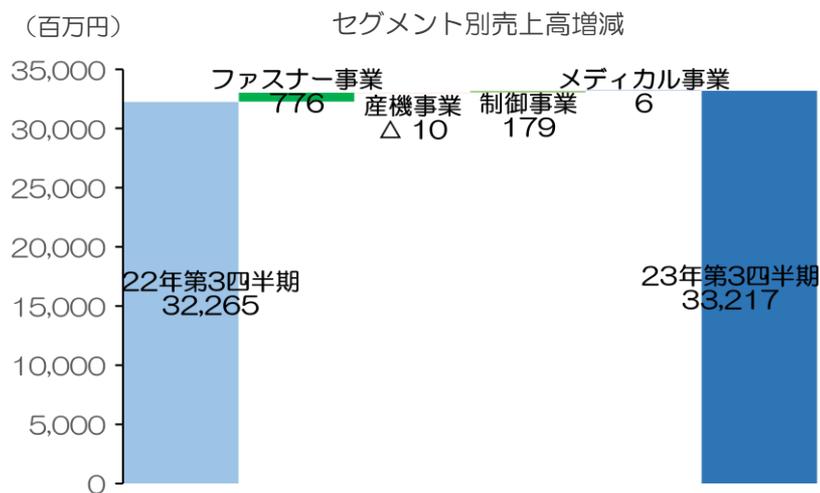
2022年3月  
なでしこ銘柄  
初選定

単位：百万円／%	22年12月期 第3四半期		23年12月期 第3四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	32,265	100.0	33,217	100.0	952	3.0
売上総利益	7,429	23.0	7,416	22.3	△ 12	△ 0.2
販売管理費	5,619	17.4	5,714	17.2	94	1.7
営業利益	1,809	5.6	1,702	5.1	△ 107	△ 5.9
経常利益	2,155	6.7	1,926	5.8	△ 228	△ 10.6
税金等調整前当期純利益	2,499	7.7	1,930	5.8	△ 568	△ 22.7
親会社株主に帰属する当期純利益	1,613	5.0	1,122	3.4	△ 490	△ 30.4
一株当たり当期純利益（円）	43.68		30.39			

- 昨年4月に連結子会社化したケーエム精工、ピニングが業績に貢献。加えて、自動車関連や住宅・建築業界向けのファスナー製品、化学・薬品業界向けの分析機器などの制御製品が好調に推移し、前年同期比3.0%の増収。
- 利益面では、資源・原材料高騰を受け販売価格の改定や製販一体となったコストダウンを進めたが、米国・中国経済の減速による受注低迷の影響が大きく、前年同期比5.9%の減益。
- 海外は、米国・中国経済の減速に加え、東南アジアでも顧客の在庫調整が長期化し、売上高はやや減少。

# セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		22年12月期 第3四半期	23年12月期 第3四半期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	23,769	24,546	776	3.3
	営業利益	952	1,140	188	19.7
	利益率	4.0	4.6		
産機事業	売上高	4,637	4,626	△ 10	△ 0.2
	営業利益	861	581	△ 279	△ 32.4
	利益率	18.6	12.6		
制御事業	売上高	3,849	4,029	179	4.7
	営業利益	70	63	△ 7	△ 10.0
	利益率	1.8	1.6		
メディカル事業	売上高	8	15	6	86.8
	営業利益	△ 73	△ 82	△ 8	—
	利益率	△ 919.2	△ 550.1		



単位：百万円／％	22年	23年	前年同期比	
	第3四半期	第3四半期	金額	増減率
売上高	23,769	24,546	776	3.3
自動車	8,242	9,489	1,246	15.1
住宅・建築	4,997	5,540	543	10.9
電機・電子部品	4,161	3,573	△ 588	△ 14.1
雑貨	1,907	1,721	△ 185	△ 9.7
IT・情報機器	1,241	981	△ 260	△ 21.0
精密機器	828	821	△ 7	△ 0.9
医療	243	238	△ 4	△ 1.8
エネルギー関連	109	138	28	26.2
その他	2,038	2,041	3	0.2
営業利益	952	1,140	188	19.7

- 主力の自動車に加え、住宅・建築分野が堅調に推移し、増収増益。
- 海外では、北米向けの建築用ねじが堅調に推移。
- 製造工場の集約による効率化・原価低減を推進。

## ◆自動車

- コロナ禍の影響による顧客の在庫調整の余波はあるものの、EV・ECU・電池・センサ・電動化向け「ギザタイト」「アルミタイト」「座金組み込みねじ」が回復。「CPグリップ」「精密プレス製品」、軽量化・薄板化に貢献する新製品「JOISTUD(ジョイスタッド)」の需要が堅調に推移。

## ◆住宅・建築

- 建築向け締結部品「ドリルねじ」「ナット」などの需要が好調に推移。また、新製品「シェアクロス」の市場投入で今後の伸長に期待。

## ◆電機・電子部品

- 欧州、中国での消費低迷により低調に推移。

## ◆雑貨

- コロナ禍による巣ごもり需要で盛り上がったゲーム機市場は落ち着き、精密ねじの受注が減少。

## ◆IT・情報機器

- 前期好調であった5G通信関係の反動を受けて海外含め低調。

単位：百万円／％	22年	23年	前年同期比	
	第3四半期	第3四半期	金額	増減率
売上高	4,637	4,626	△ 10	△ 0.2
自動車	2,945	2,616	△ 328	△ 11.1
電機・電子部品	379	828	449	118.4
遊技機	58	208	150	255.4
IT・情報機器	123	161	38	30.9
エネルギー関連	221	159	△ 62	△ 28.0
住宅・建築	99	146	47	47.2
雑貨	34	10	△ 24	△ 69.5
その他	776	495	△ 282	△ 36.3
営業利益	861	581	△ 279	△ 32.4

- 売上高は、電動化需要、人手不足を背景にした自動化機運が高まるも、米国・中国で設備投資意欲が低迷し、微減。
- 営業利益は、標準機の販売価格の転嫁は進んだものの、特殊機と米国の受注減の影響で減益。

## ◆自動車

- 国内ではEV関連のねじ締め機の受注、海外ではCASE関連の設備が活発であるものの、世界経済の不透明感の高まりが設備投資意欲を押し下げており、特に米国・中国での受注が落ち込み低調に推移。

## ◆電機・電子部品

- 基板表面処理装置の大型案件獲得など、前年同期比大幅増。

## ◆遊技機

- 新機種生産に伴う「組立ライン」「ねじロボ」など、大型受注を受けて売上高は大幅増。

## ◆IT・情報機器

- スマホ関連の特需により好調に推移。

## ◆エネルギー

- ガスコンロ・ガスメーター関連の設備受注があったものの、全体としては低調に推移。

## ◆その他

- 産業用ロボット市場の輸出が減少傾向にあり、関連する設備受注の反動を受け、売上減。

単位：百万円／%	22年	23年	前年同期比	
	第3四半期	第3四半期	金額	増減率
売上高	3,849	4,029	179	4.7
化学・薬品	843	964	120	14.3
エネルギー関連	644	642	△ 1	△ 0.2
住宅・建築	439	331	△ 108	△ 24.6
電機・電子部品	211	267	55	26.4
造船	195	237	42	21.8
環境	209	187	△ 21	△ 10.1
自動車	262	187	△ 74	△ 28.5
その他	1,044	1,210	166	16.0
営業利益	70	63	△ 7	△ 10.0

- 売上高は、分析装置、流量計の需要が堅調に推移し増収。
- 営業利益は、原材料費の高騰に加えジオカルテ製品の売上低迷により減益。加工部品の内製化などのコスト低減や販売価格の改定を含めた収益性の早期改善に努める。

## ◆化学・薬品

- 分析装置を中心とし、各種流量計などの需要も堅調に推移。

## ◆エネルギー

- 分析装置の需要は横ばい。

## ◆住宅・建築

- 地盤調査機「ジオカルテⅣ」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く影響で低調に推移。

## ◆電機・電子機器

- 分析計測機器の需要が堅調に推移。

## ◆造船

- CO<sub>2</sub>排出規制に係る国際制度への移行により、質量流量計への置き換えなどの需要が国内外ともに好調に推移。

## ◆環境

- 工場排水の分析機器、元素計などの需要はあるものの、部品不足の影響を受け減少。

## ◆自動車

- 電池材料など抵抗率計の需要は多いが、検査機の需要は低迷。

単位：百万円／％	22年 第3四半期	23年 第3四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	8	15	6	86.8
医療	8	15	6	86.8
その他	—	—	—	—
営業利益	△ 73	△ 82	△ 8	—

## ◆医療

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、本年6月に国内特許取得。まずは年内の非臨床試験完了を目指し、一貫製造設備の整備、臨床試験に向けた試料の製作、性能試験など、上市に向けた取り組みに注力する。また、並行して本素材を適用可能な部品の情報収集を進める。
- 当社既存技術を活かした新たなプロジェクトを始動し継続中。医療機器の拡充を図る。

## 2023年12月期 第3四半期 (連結) 貸借対照表

単位：百万円／％	22年12月期 期末		23年12月期 第3四半期		前年同期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
<b>資産の部</b>						
流動資産合計	34,342	64.3	33,689	64.0	△ 653	△ 1.9
現金及び預金	9,098	17.0	9,018	17.1	△ 80	△ 0.9
受取手形・電子記録債権/売掛金	13,986	26.2	12,497	23.7	△ 1,489	△ 10.6
棚卸資産	10,081	18.9	11,158	21.2	1,077	10.7
固定資産合計	19,065	35.7	18,961	36.0	△ 104	△ 0.5
有形固定資産	14,085	26.4	14,084	26.8	△ 1	△ 0.0
無形固定資産	1,146	2.1	1,028	2.0	△ 117	△ 10.3
投資その他の資産	3,833	7.2	3,847	7.3	14	0.4
<b>資産合計</b>	<b>53,408</b>	<b>100.0</b>	<b>52,650</b>	<b>100.0</b>	<b>△ 757</b>	<b>△ 1.4</b>
<b>負債の部</b>						
流動負債合計	14,601	27.3	12,983	24.7	△ 1,617	△ 11.1
支払手形・電子記録債務/買掛金	9,015	16.9	8,433	16.0	△ 581	△ 6.5
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,436	5.6	1,720	3.3	△ 716	△ 29.4
固定負債合計	4,304	8.1	3,861	7.3	△ 443	△ 10.3
<b>負債合計</b>	<b>18,906</b>	<b>35.4</b>	<b>16,845</b>	<b>32.0</b>	<b>△ 2,060</b>	<b>△ 10.9</b>
<b>純資産の部</b>						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.7	—	—
資本・利益剰余金	28,208	52.8	28,788	54.7	579	2.1
自己株式	△ 1,246	△ 2.3	△ 1,342	△ 2.5	△ 95	—
<b>純資産合計</b>	<b>34,501</b>	<b>64.6</b>	<b>35,805</b>	<b>68.0</b>	<b>1,303</b>	<b>3.8</b>

## 2. 2023年12月期 第118期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,021	100.0	45,000	100.0	978	2.2
営業利益	2,931	6.7	2,600	5.8	△ 331	△ 11.3
経常利益	3,235	7.3	2,800	6.2	△ 435	△ 13.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,828	4.2	1,700	3.8	△ 128	△ 7.0
一株当たり当期純利益（円）	49.50		46.01			

- ファスナー事業は、自動車関連を中心に需要は回復傾向にあるものの、コロナ禍における生産調整により増加した流通在庫の解消に時間を要しており、年度後半以降、本格的な回復には至らず。また、原材料上昇分の価格転嫁は進んでいるものの、エネルギー・副資材関係上昇分の価格転嫁の交渉が難航しており、前回予想を下回る状況。
- 産機事業は、自動車CASE関連は好調であったが、世界経済の不透明感により当面は設備投資意欲の低調が続く見込み。特に米国・中国の標準機の需要が想定以上に減少していることから、減収減益。
- 制御事業は、化学・医薬・食品・造船の分野を中心に設備投資が活発で、今後も流量計の更新需要が高まる見込み。

# セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

単位：百万円／%		22年12月期	23年12月期 (予想)	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,199	33,020	820	2.5
	営業利益	1,648	1,660	11	0.7
	利益率	5.1	5.0		
産機事業	売上高	6,515	6,280	△ 235	△ 3.6
	営業利益	1,227	890	△ 337	△ 27.5
	利益率	18.8	14.2		
制御事業	売上高	5,296	5,680	383	7.3
	営業利益	157	160	2	1.4
	利益率	3.0	2.8		
メディカル事業	売上高	10	20	9	91.3
	営業利益	△ 102	△ 110	△ 7	-
	利益率	△ 976.2	△ 550.0		

